

Topics | 北海道支部

「軟石を生かしたまちづくり」

—平成 29 年度都市地域セミナー(兼支部 10 周年記念シンポジウム)開催報告

小松正明 日本都市計画学会北海道支部 副支部長

北海道支部では、都市地域づくりをテーマに毎年セミナーを開催しています。平成 29 年度第一回セミナーは、支部 10 周年記念シンポジウムを兼ね、札幌を中心とした地域資源である「軟石を生かしたまちづくり」をテーマに開催しました。セミナーは「札幌軟石文化を語る会」の佐藤俊義氏を迎え、ツアー、講演会、PDの3部構成で行いました。

【第1部 札幌軟石に縁のある現場見学会】

第1部では、佐藤俊義氏を全体ガイドに、札幌軟石に縁のある地をめぐる現場見学会を実施しました。石山緑地、

“ぼすとかん”、辻石材工業(株)札幌軟石採掘所、“軟石や”、等めぐり、軟石への理解を深めました。



【第2部 講演会「北海道の軟石文化」】

第2部では佐藤俊義氏による講演会「北海道の軟石文化」を開催しました。

佐藤氏は造園設計会社に勤務し、札幌市南区の藻南公園の札幌軟石ひろば建設で行った地元石工や住民とのWSを契機に札幌軟石と出会い、その後の「札幌軟石文化を語る会」の運動に続いたそうです。札幌建築鑑賞会と共に札幌市内に軟石建築物が約 300 軒もあることを調査し、それが新聞に取り上げられ軟石ファンの増加に貢献されました。

札幌軟石が資材として使われるようになったのは約 150 年前のことで、当初、不燃建築素材としての軟石の利用が推奨されました。

明治から昭和初期までは札幌軟石造りの建物が多く作られましたが、軟石は切り出す深さで強度にムラがあることから建築基準法では厳しい制限が加えられ、やがてこの工法による建築は衰退しました。美瑛軟石や網走軟石など道内各地に軟石文化がありますが、既に放棄された石切り場跡は森林化が進み、歴史に埋没しかけています。

しかし現在は解体された軟石建築の軟石を外壁材や内装材として再利用する新しいニーズが生まれているそうです。佐藤氏は、軟石建築による景観文化を札幌や北海道の

ブランドとして活用するため、どこにどのような建築物があるのかの掘り起こしと再認識が大切であると述べ

べられました。一方で、軟石を切り出しているのはこの日に見学した辻石材工業(株)一社のみとなっており、現在そして今後のニーズを支える技術力を継承していく必要性・重要性をより多くの人に理解して欲しい、とまとめられました。



【第3部 PD「軟石を生かしたこれからのまちづくり」】

パネルディスカッションは、パネリストに佐藤俊義氏と軟石雑貨制作工房「軟石や」代表の小原恵氏、コメンテーターに NPO 法人歴史的・地域資産研究機構代表理事の角幸博氏を迎え、コーディネーター役を北海道支部の小松正明副支部長が務めて開かれました。

小原氏からは、軟石にまつわる感動をより多くの人に伝えたいという思いで、軟石を通じた活動が発展し2年前から「軟石や」を立ち上げ独立したことなどが紹介されました。角氏からは、歴史的建築物を通じて地域に興味を持ち、好きになることは、地域にとっての力になること、建物を残すには、その建物や持ち主を褒めちぎることが一番効果的である、と述べられました。佐藤氏は、物質としての溶結凝灰岩ではなく、札幌の軟石という物語をつたえ、語り合って共有し、軟石好きを増やしたいと述べられました。

会場からは、札幌建築鑑賞会の杉浦氏や、かつて石工だった地蔵氏からも発言があり、軟石にまつわる多面的な話題に触れることができたセミナーとなりました。

